

COVID-19 患者のサイトカイン放出症候群に対するトシリズマブの効果

[The effect of tocilizumab on cytokine release syndrome in COVID-19 patients](#)

De Cáceres C, Martínez R, Bachiller P, et al.

【Pharmacol Rep. 2020 Dec;72(6):1529-1537】-peer reviewed(査読済み)

(要旨)

◇背景

本研究は、トシリズマブの有効性および安全性を評価し、ならびに SARS-CoV-2 により引き起こされる二次性のサイトカイン放出症候群の患者の増悪および死亡率に関わる要因を検討することを目的としている。

◇方法

SARS-CoV-2 のポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) 検査の結果が陽性で、臨床経過により1回以上のトシリズマブ投与を要した入院患者を対象に、後ろ向き記述的観察研究を実施した。人口統計学的変数、臨床経過、放射線画像所見および解析パラメータをトシリズマブの初回投与後 day-1, day-3, および day-5 に解析した。

◇結果

急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) の臨床病歴を有する患者計75人を解析した結果、軽度 ARDS は19人 (25.3%)、中等度 ARDS は37人 (49.4%)、重度 ARDS は19人 (25.3%) であった。リンパ球減少症、および CRP、D-ダイマー、IL-6 の上昇がほぼすべての患者でみとめられた (91.8%)。トシリズマブ投与は、リンパ球減少症の改善、C反応性蛋白 (CRP 値) の低下、重症 ARDS 症例の低減、および発熱の改善と関連していた。トシリズマブを2回以上投与した患者 (75人中の38人) では PaO_2/FiO_2 の経過は良好であったが、死亡率 (47.4%) および ICU 入院率 (86.8%) の上昇がみとめられた。30日死亡率は30.7% [信頼区間 (CI) [20.5~42.4]] であり、予測要因は高血圧、初期の D-ダイマー高値、および ICU 入院のみであった。

◇結論

本研究の結果から、トシリズマブによる治療は発熱、腫脹、および人工呼吸器サポートの改善と関連していたが、2回以上のトシリズマブ投与が死亡率低下に関連するエビデンスは示されていない。